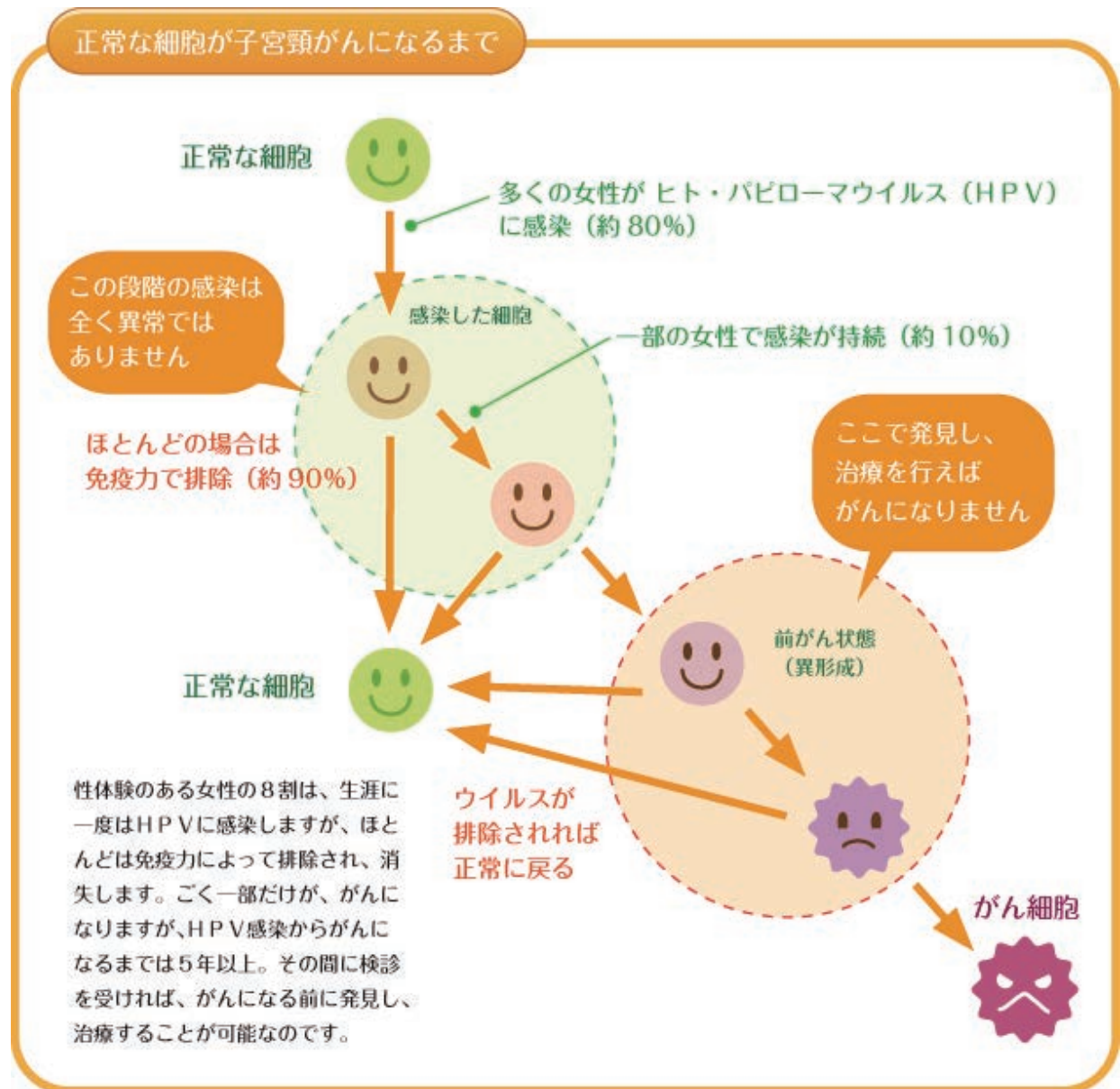


HPV（ヒト・パピローマウイルス）検査のご案内

子宮頸がん検査には、子宮頸部の細胞の変化を調べる『細胞診』と子宮頸がんの原因であるウイルス（HPV）に感染しているかを調べる『HPV検査』があります。これまでは細胞診が一般的でしたが、近年HPV検査を加える検査方法が広まりつつあります。従来の細胞診にHPV検査を併用することで、前がん病変を高感度に発見することができます。これにより、見落としがなくなり子宮頸がんを未然に防ぐことができます。



HPV検査とは

HPV検査では、子宮頸がんの主な原因となるハイリスク型HPVに感染しているかどうかを遺伝子レベルで検出するとともに、特にリスクの高いHPV16型と18型に感染しているかも特定できます。

【検査結果の判定】採取した細胞がHPVに感染していなければ「陰性」、感染していれば「陽性」

細胞診（正常）・HPV（陰性）⇒ 定期健診

細胞診（正常）・HPV（陽性）⇒ 次回健診（6～12カ月後）

細胞診（陽性）⇒ 要精密検査

検査方法について

子宮頸部の細胞をブラシなどで採取して顕微鏡で調べます。細胞診検査で採取した細胞で検査ができるので、検査を受ける方の負担と検査時間は今までと変わりません。

注）市町村の子宮がん検診を受診の方：別途採取が必要ですが、細胞診検査と一緒に採取できます。